

## 2 脳刺激が身体に及ぼす影響と今後のリハビリテーションへの応用

植草学園大学 保健医療学部 理学療法学科 松田 雅弘

近年、脳卒中後遺症、パーキンソン病などの中枢神経疾患患者に対して経頭蓋直流刺激（Transcranial Direct Current Stimulation: tDCS）や、経頭蓋反復磁気刺激（repetitive transcranial magnetic stimulation: rTMS）を用いたリハビリテーションの有効性が報告されている。その効果としては、麻痺側上肢の麻痺の改善、半側空間無視の改善、パーキンソン病の動作緩慢の改善など治療効果を示している。これは非侵襲的脳刺激を加えることで、脳活動を促進または抑制することが可能であり、半球間抑制の理論や脳内ネットワークに依拠した機能に関する変化が生じる。脳イメージングによって活動変化を可視化した報告、運動パフォーマンスの変化など、その効果は特に慢性期患者や軽度の麻痺症状での報告が多い。そのなかで我々は、回復期患者または重度麻痺における麻痺の改善効果について報告した。運動学的な分析を実施することで、細

かな変化をとらえることができ、筋緊張の変化や動作戦略の変化を明らかにした。このように脳への非侵襲的な刺激の効果については、有効な報告は多いが患者への適応、強度、頻度など未だ十分に解明されていない。さらに、脳刺激後のリハビリテーションは集中的な理学療法や作業療法の併用が必要とされ、未だ有効的な確立された方法論はみられない。

今後、非侵襲的脳刺激による麻痺や高次脳機能、動作緩慢などの障害に対するアプローチは本邦でも拡大していく可能性がある。そこで、その治療後の患者に対する評価や治療方針など理学療法士として携わることが予測される。現在までの脳刺激に対する効果をまとめ、リハビリテーションへの応用に関して現在までの知見と今後の方向性について考えていきたい。

### 学生企画シンポジウム

## 理想の理学療法士への道～新人からベテランまで、みんなで作るワークショップ～

企画委員長	山内 大士	京都大学大学院医学研究科
企画副委員長	佐々木康介	広島大学大学院医歯薬保健学研究科
	里地 泰樹	藤田保健衛生大学大学院保健学研究科
企画委員	辻村 悠	文京学院大学保健医療技術学部理学療法学科
	馬場 保人	首都大学東京健康福祉学部理学療法学科
	大下 航平	鹿児島大学医学部保健学科
	土屋 千穂	専門学校社会医学技術学院理学療法学科

本企画のコンセプトは、理学療法士としての「理想」と現状を比較し、その差を「課題」として見出し、その課題に対して「今やるべきこと」を理学療法士と学生で討論することである。

高齢社会が進みリハビリテーションへの需要が高まる中、理学療法士の養成校は急増し、経験年数の短い理学療法士が占める割合が圧倒的に増えた。そのような中でたくさんの考え方が生まれたが、それにより各々が抱く「理想」が多様化し、個人として「今やるべきこと」がわからなくなることが多い。本企画は、理学療法士としての「理想」と「課題」を多くの理学療法士・学生間で共有し、個人として「今やるべきこと」は何であるかを考えるための機会である。

各々の「理想」と「不安」、課題への対処法を聴取することを目的に理学療法士・理学療法学生を対象にアンケートをするとともに、様々な分野で活躍されている理学療法士や、理学療法に関わる団体の代表者にインタビューを実施した。当日は、そうしたアンケート結果やインタビュー内容を踏まえつつ、現状の「課題」を明確にし、課題に対して「今やるべきこと」を理学療法士と学生で討論する。

自分以外の理学療法士の考え方や創意工夫を知ること、自らを見つめ直し、理想を実現するためのきっかけになるのではないかと。たくさんの方々の参加をお待ちしております。